

痛風の激しい痛みが
一種のレメディーで大きく改善したケース

森下千秋

日本ホメオパシーセンター湘南藤沢鵜沼（CH1 期卒）

JPHMA 認定 ホメオパス #878

ZEN メソッド修得認定 #228

JPHF 認定 インナーチャイルドセラピスト #009

JPHF 認定 フラワーエッセンス療法士 #004

JPHF 認定 スピリチュアル・フィットセラピスト #005

【要約】

今まで年に数回痛風になり、無くなるまでに 3 週間かかっていた痛みと腫れが
あるレメディーをとり、激しい痛みが 2 日でほぼゼロになるほど大きく改善したケース

【主訴】

40 代 男性

痛風

【タイムライン】

2023 年の秋 痛風を発症 右手首が 5 日ぐらい激痛
痛みと腫れがなくなるまで 3 週間くらい

数ヶ月後 手首もしくは足首に痛風発作

2024 年の夏 左足首に痛風発作 5 日ぐらい激痛
痛みと腫れがなくなるまで 3 週間くらい

その後 左手首に痛風発作

【経緯】

2025 年 7 月 15 日 早朝、左足首が痛風発作で激痛。

手元にあった

◆液) Berb. (バーバリスバイ) のチンクチャー

◆TS (ティッシュソルト)

粒) Calc-p. (カルクフォス)

粒) Kali-m. (ケーライミュー)

粒) Nat-p. (ナットフォス)

粒) Nat-s. (ナットソーファー) をとる。

（昨年（2023年）の秋に）お伝えしてあった

◆『粒）Colch.（コルチカム）』のレメディーをオーダー。

翌 16 日

◆『粒）Colch.（コルチカム）』のレメディーが届いたのでリピート。

痛風の痛みが『MAX10』だとすると『3』に軽減。

翌 17 日

朝、痛風の痛みが『3』から『0.2』まで大きく改善。

その後、残っていた腫れは『粒）TS（ティッシュソルト）』で改善。

【選択・根拠】

知人の男性より、昨年（2024 年）の秋、痛風発作が起きた。と伺ってから数日後、
（森下が）図書館でみかけた書籍（参考文献『1』）の中に
ある植物の記述として『痛風に効くが、まかりまちがえば・・・・』の記述を発見。

さらに読みすすめると『中世になると痛風の鎮静効果があることが発見された。他の病氣や
炎症の痛みにはまったく効かないが、痛風だけはびたりと治まるという不思議な選択性があるのだ。』
と記述のあった植物『イヌサフラン（Colch.（コルチカム））』について調べたところ、

書籍（参考文献『2』）の中に

『◎接触＝電撃のような衝撃が体を貫く。わずかな接触で悪化。』

『◎肝疾患＆痛風』の記述をみつけたのと、

知人の男性が、痛風発作が起きた秋、ちょうど下痢をしているとも伺っていたのだが、
同じく書籍（参考文献『2』）の中に

『◎秋の下痢』の記述もあったので、

『イヌサフラン（Colch.（コルチカム））』というレメディーの特徴について、お伝えをした。

【結果】

今回（7 月）の発作時に『Colch.（コルチカム）』のことを思い出されて、粒のレメディーをオーダー。
届いて、レメディーをとったその日のうちに、痛風による激痛が『MAX10』から『3』に。
翌朝には『3』から『0.2』まで大きく改善されたく、喜びのご報告をくださった。

【考察】

書籍（参考文献『1』）の中の『中世になると痛風の鎮静効果があることが発見された。他の病氣や
炎症の痛みにはまったく効かないが、痛風だけはびたりと治まるという不思議な選択性があるのだ。』
の記述のとおり、痛風の激しい痛みが 2 日でほぼゼロになるほど、速やかに大きく改善した。

『イヌサフラン』の種子や球根に含まれるアルカロイドの『コルヒチン』は、
『コルヒチン』という名前で痛風やリウマチの治療薬として使われてきた歴史があるようなのだが、
『コルヒチン』は毒性が強く、副作用として、下痢や嘔吐があり、服用が長期間にわたる場合には、
血液障害や生殖器障害、肝・腎障害や脱毛など、重篤な副作用の発現する可能性もあるそう。

だが、『ホメオパシー』であれば天文学的に希釈振とうされていることから、副作用の危険もなく、
その点において安心しておつかいいただけるとのこと鑑み、ご報告をくださった知人の男性に
コンGRESで広くたくさんのかたにお伝えしたい旨ご連絡したところ、ご快諾をいただいたので、
ここにシェアさせていただきました。ご快諾くださいました知人の男性に深く感謝申し上げます。

突然起こる、痛風発作でお困りのかたや、薬剤による副作用が気になるかたに、
激痛がたった2日で大きく改善したこのケースが、一助になりましたら幸いです。

参考文献： 1. 『毒草の誘惑』 植松黎（れい）さん：著
2. 『シノプティック・マテリアメディカ』 フランスのヴァーミュラン先生：著